



イチネングループ 総合情報誌 第88号

2010年7月1日発行(季刊) 編集 株式会社イチネンホールディングス 社長室 http://www.ichinenhd.co.jp

「10年3月期グループ業績及び11年3月期グループ計画」



グループ予算委員長 株式会社イチネン 代表取締役社長 黒田 勝彦

ふえろ〜ご愛読の皆様におかれましては、益々ご健勝の事とお慶び申し上げます。平素は、イチネングループに対しまして格別のご支援、ご協力を賜り心より御礼申し上げます。新しい事業年度(11年3月期)に入って早3ヶ月が経過しましたが、グループの現状についてご報告させていただきます。

1. 10年3月期業績(連結ベース)
売上高 47、135百万円 (前期比 7.5%減)
営業利益 2、943百万円 (前期比 2.0%増)
経常利益 2、523百万円 (前期比 4.3%増)
当期純利益 1、664百万円 (前期比53.3%増)

びに再リース率が高まったこと、また、競合他社との競争激化により契約高、契約残高共に減少しました。燃料販売事業の主力である自動車用燃料給油カードにつきましては、販売数量は増加したのですが、仕切り価格の上昇を機動的に販売価格に転嫁することが出来ず、大幅な減収減益となりました。

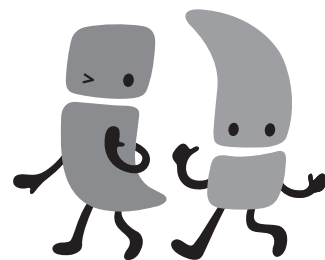
2. 11年3月期利益計画(連結ベース)
売上高 48、000百万円 (前期比 1.8%増)
営業利益 3、050百万円 (前期比 3.6%増)
経常利益 2、570百万円 (前期比 1.8%増)
当期純利益 1、670百万円 (前期比 0.3%増)

ものの、急激な為替変動や雇用環境・個人消費の停滞等の不安材料が多数顕在し、引き続き不透明な状況で推移するものと思われれます。
過去3年間、イチネングループは売上高の減少傾向が続いておりますが、今年度からはこのような状況に歯止めをかけ、増収に転ずることを目指してまいります。
自動車リース事業及び自動車メンテナンス事業におきましては、契約台数、契約残高の増加を図ります。また、低年式・走行過多車両の入替を促進しメンテナンスコストの削減に注力し収益向上に努めてまいります。燃料販売事業におきましては、仕入れ価格に連動した販売価格の改定を機動的に行うことにより適正なマージンを確保してまいります。ケミカル事業におきましては、コンシューマー向けリバイバル商品として、メガネクリンビュを市場に投入し、雑貨用品の市場の掘り起こしを行います。パーキング事業におきましては、更なる駐車場数の拡大と引き続き不採算駐車場の採算改善を行い収益向上に努めてまいります。
今年、イチネングループは創業80年を迎えましたが、これは決してゴールではなくただの通過点であります。100年、200年と存続していくための土台を固める年にしたいと考えております。
これからも倍旧のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

以上



いつもあなたのとなりに。
お客様ひとりひとりの幸せな笑顔をみていたいから。
いちばん身近で、いちばん頼れる保険会社をめざして。
わたしたちはあいおい損保です。



あいちゃん おいちゃん

あいおい損害保険株式会社 大阪法人営業部
〒530-0047 大阪市北区西天満4-15-10 TEL: 06-6363-3231

(2007.11)

# イチネングループビジョンプロジェクト 発足にあたり

イチネングループプロジェクトプロジェクトリーダー  
株式会社イチネン 取締役執行役員 企画戦略室長 黒田 哲也

イチネングループは今年で80周年を迎えることができました。これはお取引先の皆様からの日頃からの温かいご支援の賜物と深く感謝しております。

さて、この度、イチネングループは未来に目を向けたイチネングループビジョンを策定するプロジェクトが発足致しました。

昨今、我が社を取り巻く経営環境はスピードと変化に満ちており、足元をしっかりと固めつつ、柔軟で革新に富んだ経営スタイルを追求することが重要であります。こうした中、イチネングループは、ホールディングス体制への移行及び各事業会社の組織改編を行うと共に、グループ全体の経営者が大きく若返り、柔軟かつ機動的な経営を目指して日々邁進しております。

また、グループの主力である自動車関連総合サービス事業やケミカル事業は、これからの5年、10年、20年という中長期のサイクルでは、環境問題に対応した技術革新やグローバル競争の進展、労働環境の変化などの業界変化に対応していくという課題があります。そのため各事業において強みを活かしながら大きく変革していくと共に、別途、柱となる新規事業や新商品を様々な分野で研究・開発していく必要があると考えております。

こうした環境において、「未来のイチネングループを考える」という理念に基づき、今期に入りイチネングループビジョンプロジェクト

トを発足しスタートしております。イチネングループは、今後どのような方向に向かって経営を行うのか(会社の方向性)、何を大事に守り(会社の伝統やDNAの継承)、どのように変化していくのか(経営革新)、ということがとても重要なテーマになります。

イチネングループは、数年前と比べて組織はとて増大し、社員数も大幅に増大しました。以前にも増してとても個性的で多彩な人材が集まる集団になったと思います。そして、今後これらの役員全員がグループの価値観を共有し、一丸となって総合力を発揮できる「経営理念」や「経営ビジョン」、「社会的使命」、「企業文化」、「社員が求めるありたい姿」等を検討し再構築することで、グループの方向性を明確にし、行動していくという試みに挑戦しております。これは、プロジェクトメンバーのみならず、現場社員との協同作業で策定する予定であります。

これからの20年間は世の中の流れも会社経営としても色々と変化があるでしょうが、とても面白い時代になると予感しております。20年後の100年企業に向けて、もっと社会に貢献できる、夢と魅力が溢れる会社作りを目指して全社をあげて努力して参ります。

お取引先の皆様には、今後ともご指導・ご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。

以上

株式会社トヨタタイヤジャパン様より  
低燃費タイヤ(エコウォーカー大活躍!) 記事をご寄稿頂きました。

## 【ミラEVチャレンジ1,000】 『大活躍』

株式会社トヨタタイヤジャパン 消費財販売部 課長 布柴 淳也

当社は、日本EVクラブ(代表・館内 端氏)が製作した電気自動車「ミラEV」の途中無充電での航続距離の世界新記録挑戦にタイヤを協賛しています。

すでにご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、昨年11月に東京・日本橋・大阪・日本橋間を途中無充電で走り、米国の自動車メーカーが作ったそれまでの記録を上回る、555.6kmの世界新記録(ギネス公認)を樹立しました。その時に装着していたタイヤが当社の低燃費タイヤ「エコ・ウォーカー」です。

そして今回、その記録を大きく上回る途中無充電の航続距離1,000kmへのチャレンジが、5月22、23日の2日間にかけて茨城県・筑波サーキット内のオーバルコースで行われました。当社は、「エコ・ウォーカー」をベースに、低燃費ラベリング制度で日本初の転がり抵抗性能「AAA」グレードを実現した「スーパー・エコ・ウォーカー」の技術を搭載したスペシャル・タイヤを開発・投入し、自らの記録を更新する、1003.184kmという大記録の樹立を足元から支えました。

今年の1月からスタートしたタイヤラベリング制度ですが、今後は「低燃費タイヤ」に興味を持つお客様が増える事が見込まれます。当社といたしましても、低燃費性能を更に向上させた商品を開発し、CO2の削減に貢献する事を目指して参ります。



# 共栄会、推奨工場への 今期活動について

株式会社イチネン  
業務サービス本部 サービス営業部 渡邊 孝司  
西日本サービス営業課 課長

「ふえろ」をご愛読の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

サービス営業部では、メンテナンスサービスを通じて、お客様満足を追及し、営業部と一体となってお客様に絶対的なサービス品質及びコスト品質を提供することを目指しております。

現在、イチネンのメンテナンスサービスネットの中には「共栄会工場」と「推奨工場」の存在があります。

共栄会工場と推奨工場の数は2010年6月で全国326社あり、提携工場の中でもイチネンのサービス方針を理解し、協力的で且つサービス品質が高く、イチネンのパートナーとして確立された工場のことを指します。

日本全国で何千社とある提携工場の中から、常にお客様のために、スピードを持って柔軟に誠実に行動し、リース車両の「安全」且つ「安心」をキーワードに高点検率を誇り、当社を支える最も優れた工場様です。

共栄会工場との取り組みに於いては、年に数回の実務的な会議及び経

営者との交流を通じ、品質改善活動を実施しており、その中で、2009年度には他社との圧倒的な差別化に向けた方針の基、共栄会工場へ「イチネンブランドシール」貼付を実施し、イチネン委託車両のメンテナンスサービス品質向上(お客様対応)とリスクマネジメント(クレーム・

トラブル撲滅、整備ミス対策)に対する意識を更に高く持って日々活動をしていただいております。

また、2010年度の活動として推奨工場へも「イチネンブランドシール」貼付を行い、「イチネンサービスネット」の充実を図り、会社を挙げて取り組みしている共栄会工場ならびに推奨工場への「工場集約」を活動中であり、「お客様に喜んでいただけるようサービスの多様化」への対応に取り組んでおります。

コンプライアンス(法令順守)、CSR(企業の社会的責任)、リスクマネジメント、環境問題等、世の中を取り巻く環境が年々厳しくなってきた中、当社は「日本一のメンテナンスサービスの実現」を目指し、お客様へ貢献してまいります。

## 第48期定時株主総会

株式会社イチネンホールディングス 社長室

6月18日開催の第48期定時株主総会には雨の降る足元の悪い中、本年は昨年(154名)を上回る222名の株主様にご出席を賜り厚く御礼申し上げます。

総会終了後には、「株主懇談会」を開催させていただき、「当社グループの80年の軌跡」、「経営方針」、「今期計画」についてご説明させていただきました。ご出席いただきました株主様には「当社グループの現況」を理解して頂けたと思っております。

本年は株主総会のお土産として、創業80周年記念クオカード、当社事業会社(株)タイホーコーザイのクリンビューセット、(株)イチネンパーキングが運営します、ワンパーク心斎橋の割引チケットをご用意し大変ご好評を頂きました。

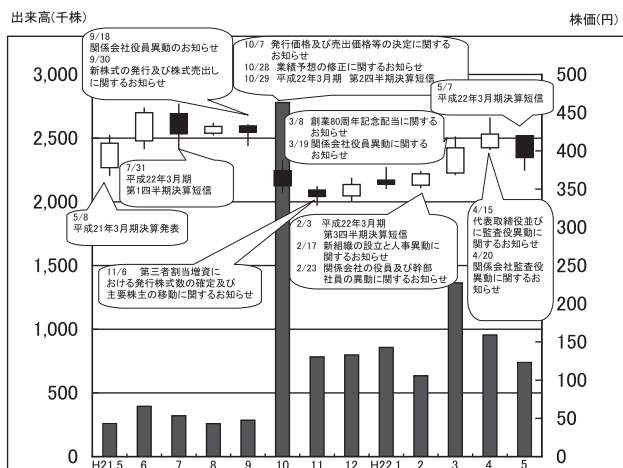
当社はこれからも株主重視の経営に努めてまいります。皆様には一層のご指導、ご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

### ■報告事項

- 1. 第48期事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
- 2. 第48期計算書類報告の件

### ■決議事項

- 第1号議案…剰余金の処分の件  
本件は、原案のとおり承認可決されました。
- 期末配当金は、1株につき8円とし、合わせて創業80周年記念配当5円を加え13円と決定いたしました。
- 第2号議案…取締役1名選任の件  
本件は、原案のとおり三村一雄氏が選任され就任いたしました。
- 第3号議案…監査役1名選任の件  
本件は、原案のとおり中室修司氏が選任され、就任いたしました。



### 株価チャート

- 2010年度
- 3/19 関係会社役員異動に関するお知らせ
- 4/15 代表取締役並びに監査役異動に関するお知らせ
- 4/20 関係会社監査役異動に関するお知らせ
- 5/7 関係会社監査役異動に関するお知らせ
- 5/20 関係会社監査役異動に関するお知らせ

プレスリリース

# IR NEWS

## 80周年特別企画！

## ～入社時を振り返って～

株式会社イチネンホールディングス 特別顧問 黒田 倅司



## \* 入社時..

私は、昭和31年に入社、当社は石炭が専業（石炭が主流で、世間よりわずかに後れを取って石炭から石油への転換を推進している時期でした。）の会社でした。

そして私は8番目の社員、それまでは社員7名で会社を運営していました。

当社は昭和5年に創業、昭和16年から24年までの太平洋戦争後8年間、石炭は戦時統制品だった為、自由販売が出来ず、昭和24年まで（創業者）黒田重太郎は役所勤めをする。

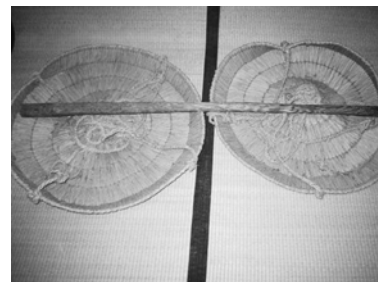
自由販売となってから昭和24年に大阪地区で一番初めに（第一燃料の名前の由来）石炭販売を再開。

個人商店から株式会社に組織を改め 第一燃料株式会社となる。

入社当時 朝は6時30分頃には家を出て、8時までに会社へ出勤、夜は、20時頃まで仕事をし、帰宅は21時30分頃で、日曜日以外休みもなく従業員一丸となって毎日一生懸命働きました。

当時私は石炭の配達もしており、石炭は※畚（ふご）にいれて（50kg）を2段重ね（100kg）にし、肩に担いで運んでいて、肩は蚯蚓腫れになることもありました。

※畚..わらで編んだ入れ物



## \* 石炭から石油へ

黒田重太郎も石油事業に関心があったのですが、なかなかやる人がいなかったのが現状でした。

しかしながら、石炭から石油へのエネルギー転換は明らかに進んでおり、私が入社2年目に当社も石油事業に参入し（重油）当時丸善石油（現コスモ石油株式会社）と取引を開始しました。

昭和41年には、石炭業をやめ、石油業を拡大していきました。

石油も石炭と同じく人手がなく、私も配達をしていました。

当時は重油のドラム缶の重量が200kgもありましたが、ドラム缶をうまく操作しながら転がし自分で運んでいました。非常に重労働でしたが、いまから思えば、丈夫な身体に産んでくれた母親に感謝します。

昭和38年河内セントラル ガソリンスタンドをオープンさせました。

第一号マネージャーが黒田倅司（現・相談役）です。

その頃、ガソリンスタンド事業は軌道に乗り、多い時は11ヵ所オープンさせていましたが、将来性を考え、見切りを付けようとガソリンスタンドを閉鎖していきました。

その頃まだ軌道に乗っていたので同業者からは閉鎖する事を白い目で見られる事もありましたが、当社は、一つの業種が良い時に新しい業種を開拓し、常に世の中の流れを先読みした事業展開をしてきたことで、この80年を迎える事になったのです。

## \* 株式上場へ

その後当社は、平成6年8月 大阪証券取引所市場第二部に株式を上場、平成15年4月東京証券取引所市場第二部に株式を上場、平成17年9月東京証券取引所、大阪証券取引所の市場第一部に株式を上場し現在9434名の株主様に支えられています。（2010年3月31日現在）本当に有難い事です。

創業当時から当社は【堅実経営】一筋です。取引の中で、長い間赤字取引を続けるお客様は得意先とはいえません。早い時期に見切りをつける事の勇気が必要です。

創業80周年で赤字の年は一度もありません。

よく周りの方から運が良いと言われます。しかし運だけでは会社は成り立ちません。

一生懸命コツコツと積み上げてきたものがあるから80周年を迎えることが出来たのだと思います。

また、これまでに多くの方に支えて頂いたことには本当に感謝しております。時代は変わっても、変わらない【イチネンらしさ】を忘れることなく、皆一丸となって一生懸命働いて欲しいと思います。

かるがる、ころがる、低燃費<sup>\*1</sup>

もっと地球にやさしく、安心した走りを実現したい。

ECO WALKERは、低燃費性能と基本性能を高次元で両立。

軽量化と新専用コンパウンドによってころがり抵抗を低減し、

さらに高い摩耗性能も確保。

エコロジー時代のNEWスタンダードタイヤを完成させました。



**TOYO TIRES**  
driven to perform

■ タイヤ重量約10%軽量化<sup>\*2</sup>

■ ころがり抵抗20%低減<sup>\*2</sup>

■ 燃費3.2%向上<sup>\*2</sup>

\*1 TOYO TEQ plusとの比較。ころがり抵抗低減により低燃費を実現。TOYO TIRES調べ。

\*2 TOYO TEQ plusとの比較。TOYO TIRES調べ。詳しくは店頭カタログをご覧ください。

NEW

**ECO WALKER** エコウォーカー

tecology  
技術と環境の調和

TOYO TIRE & RUBBER CO.,LTD. | <http://toyotires.jp>

月に一度は空気圧の点検を!